【樹木・草花の部屋】

マンリョウ（ヤブコウジ科/ヤブコウジ属　Ardisia crenata）

和名；マンリョウ(万両))　別名；タチバナ、コウジ、ヤブタチバナ、アカギ　英名；coral bush
　サクラソウ目　常緑小低木
原産地；日本、中国、朝鮮、台湾、インド　花言葉；「寿ぎ」「陰徳」「徳のある人」　花の色；赤、白、黄

← 写真－１　マンリョウの樹形
撮影日：２０１２年７月初旬
撮影場所：奈良県広陵町Ｓ邸にて
撮影者：Ｓさん

写真－２　マンリョウの花・蕾　⇒

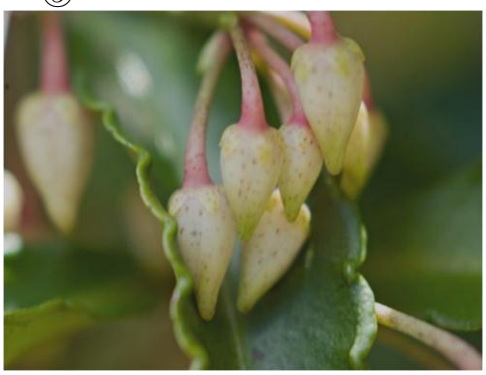
撮影日：２０１２年７月初旬
撮影場所：奈良県広陵町Ｓ邸にて
撮影者：Ｓさん

◎白実のマンリョウ

③

④

⑤



写真－3,4,5　白実マンリョウの樹形、実、蕾
撮影場所：依水園前庭　三秀亭南側
撮影日時：2012.07.15　AM10：00過ぎ
撮影者：Ｋさん

撮影者のコメント：
　白実の万両は、依水園に来てはじめて見ました。めずらしいものなのかな！！　万両のつぼみ写真は、ピントが微妙にずれています。

【樹木・草花の部屋】

写真－６　ヒャクマンリョウの樹形
撮影場所：奈良市内
撮影日：２０１３.０２．０９
撮影者：Ｍさん

奈良市内の、あるお宅に所用でお伺いした際、庭先で見つけました。一見、マンリョウ？特徴のある葉が・・。

やはり、マンリョウの仲間でした。一般に見られるマンリョウは原種形と呼ばれています。それにしても、見かけない姿・・・。

幹は根元で枝分かれせずまっすぐ上に伸び、先の方で小枝をまばらに出します。7 月頃に 1cm に満たない小花をたくさん付け、その後実を着けて晩秋～冬に色づく。花は白色で紅色の点々があり、実は枝にぶら下がるように着いており、ほおっておくと夏まで落ちずにそのままの状態を保つ。葉は長だ円形で光沢があり、革質で柔らかめ、フチには波形のギザギザがあり色は濃いめの緑色。

←実

葉→

←葉の表

葉の裏→

赤実が基本種ですが白実のシロミノマンリョウ、黄実のキミノマンリョウなどなどが知られています。また、葉に斑のはいるものや葉の形の変わったものなど園芸品種も多数存在します。 マンリョウには日本の伝統植物(古典園芸植物)の一つ。マンリョウは葉芸(葉形と斑の入り方)の鑑賞が主になるそうです。

葉形には丸葉、並葉、縮緬(チリメン)が、斑には本斑（ほんぷ)、散斑(さんぷ)、砂子斑(すなごふ)、覆輪(ふくりん）があり、これらの組み合わせで多くの品種が・・・。

江戸時代には葉が縮れたりした変異個体が選抜されて、多様な品種群が栽培されたそうです。例えば玉孔雀(タマクジャク：縮緬＋覆輪)、雪虎(セッコ：波葉＋散布)など・・・・。平成では、孔雀(ベニクジャク：赤みのかかった葉；砂子斑）があるそうです。かなり、奥の深

い植物のようです。たかがマンリョウ、されどマンリョウ？

＜ちょっと一言＞

特に名前がめでたいのでセンリョウ（千両）などとともに正月の縁起物とされています。

万両（マンリョウ・ヤブコウジ科）
千両（センリョウ・センリョウ科）、
百両（カラタチバナの別名・ヤブコウジ科）、
十両（ヤブコウジの別名・ヤブコウジ科）、
一両（アリドオシの別名・アカネ科）

と、お金（両）をほうふつとさせる名前の植物は一の位から万の位までのラインナップがそろっています。いずれの植物も秋～冬にかけて赤い実が付きます。

今回、紹介した写真－６の品種は「**百萬両**」と呼ばれている。

・・・マンリョウを越えたマンリョウで**ヒャクマンリョウ**？